

# マンケランバーの生産工程見直し

## 日本向けに新生産体制構築 インターフォー・ジャパン



インターフォー・ジャパン（東京都、岩見尚浩社長）がマンケランバーの生産工程を見直し、品質管理の徹底強化に乗り出した。マンケランバーは米国の大手製材企業で、インターフォー・ジャパンが10月積みから日本国内での独占販売権を取得している。インターフォー・ジャパンは、製品・品質への顧客の要望を徹底調査したうえで、マンケランバーの生産及び品質管理の改善に着手、原木から製品出荷までの全工程を全面的に見直し、100項目以上の改善を行った。これからの注目第1・四半期交渉が始まるが、顧客の要望に応えるきめ細かな製品づくりで市場の確立を図る考えだ。

マンケランバーは、一マに拠点を置く大手製材長さは3、3・65、4米国ワシントン州タコ材企業で、日本向けは、小角比率は55%、サムナー工場で、残りは割物・タルキの角（90、105、120mm角）、日本向けの生産工程は、日本市場の要望に比べられるよう、全面的な見直しを行った。特に乾燥工程では、乾燥時間を長くすることで乾燥がむらなく行えるようにした。また、木材内部の含水率を計測する自動含水率測定器も更新し、含水率の管理を徹底した。

生産工程の見直しに際し、ラップも一新した場から出荷している。日本向けの割物（45×75、90、105、120、30×105mm）、サムナー工場の乾燥工程は、日本市場の要望に比べられるよう、全面的な見直しを行った。特に乾燥工程では、乾燥時間を長くすることで乾燥がむらなく行えるようにした。また、木材内部の含水率を計測する自動含水率測定器も更新し、含水率の管理を徹底した。

サムナー工場は7基の乾燥機を保有するが、パッケージのラベルには、どの乾燥機でいつ乾燥を行ったかを明記し、万一乾燥不備があった場合、すぐに対策が講じられるようにしている。

グレーディングルー ルも見直し、J1グレード材の品質の安定を図る。タルキ用の加工刃物をグレードアップし、面取りを施すなどして材面の見栄えも向上させた。従業員の意識改善も同時に行い、傷や汚れなどを意識して取り除くようにした。

また、J1グレードは、市場が求める長さの明細に対応する。複数アイテムをコンテナに混載することもできるようにした。

原木調達には、240平方メートルの自社林を所有するため、原木を安定的に確保し、相場の変動リスクを軽減できるのもマンケランバーの強みとなっている。ワシントン州シエルトンには原木ヤードを保有し、米国向けを生産するタコマ工場向けと日本向けを生産するサムナー工場向けに丸太をあらかじめ仕分けし、日本市場に合った丸太を搬入している。

新生マンケランバーの製品は、11月中旬から随時入荷している。岩見尚浩社長は、「マンケランバーの原木は良質で、製造工程の見直しにより、高品質な製品が製造できることが分かった。新生マンケランバーは日本の顧客の期待に応えることができることを確信している」と語っている。

# 新生マンケ 反撃だ。



総販売窓口 インターフォー ジャパン リミテッド  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1丁目7番7号 笠原ビル6F  
Tel. 03-5641-2351 <http://www.interfor-japan.com/>